

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 16 日現在

機関番号：23601

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2013

課題番号：24660009

研究課題名(和文)入院中の乳児に付き添う母親の母乳育児の実態と母乳分泌維持促進のセルフケア行動

研究課題名(英文)The state of breastfeeding and self-care behavior aimed at maintaining and promoting breast milk secretion in mothers accompanying hospitalized infants

研究代表者

塩澤 綾乃 (Ayano, Shiozawa)

長野県看護大学・看護学部・助教

研究者番号：20551435

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,000,000円、(間接経費) 300,000円

研究成果の概要(和文)：入院中の乳児に付き添う母親の母乳育児の実態および母乳分泌を維持促進するためのセルフケア行動を明らかにすることを目的に、1歳までの乳児に付き添う母乳育児中の母親にアンケート調査を行った。さらに、協力が得られた母親には、付き添い中の母乳育児に対する考えや心理状態について半構成的面接を行った。その結果、付き添い中の母乳分泌量や乳房状態の変化、母乳育児や付き添い環境に関する困りごと、身体不調症状およびバランスの偏った食事摂取状況などが明らかとなった。母乳育児に対する考えや心理状態から、乳児に付き添う母乳育児中の母親のストレス軽減に対する支援や母乳育児継続のための精神的サポートが必要と考えられた。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to clarify the state of breastfeeding and self-care behavior aimed at maintaining and promoting breast milk secretion in nursing mothers accompanying hospitalized infants aged < 1 year via a questionnaire survey. We also conducted semi-structured interviews with mothers who agreed to participate regarding their thoughts on breastfeeding while accompanying their hospitalized infants and their state of mind. The survey and interviews revealed that mothers experience changes in the flow of breast milk and breast condition, have concerns about breastfeeding and the environment of accompaniment, and are subject to symptoms of poor physical condition and unbalanced food intake. Our findings based on mothers' thoughts on breastfeeding and their state of mind suggest the need to provide assistance and psychological support to mothers who are breastfeeding while accompanying their hospitalized infants to reduce their stress and facilitate continued breastfeeding.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学 生涯発達看護学

キーワード：乳児に付き添う母親 母乳育児 母乳分泌維持促進 セルフケア行動

1. 研究開始当初の背景

疾患を抱え入院している乳児に付き添う母親は、子どもの病気に対する心配や入院環境によるストレスを抱えながら授乳している。さらに、行動範囲が限定されることによる運動不足や偏った栄養状態などによる健康の障害、母乳分泌に対する適切なセルフケアの不足、治療のための一時的な母乳の中止などが原因で母乳分泌が減少することが考えられる。また、場合によっては母乳育児を希望していても母乳分泌の減少やストレスから母乳育児を諦めることが考えられる。

2. 研究の目的

入院中の乳児に付き添う母親の母乳育児の実態を明らかにし、母乳育児を継続するにあたり、母乳分泌を維持促進するためのセルフケア行動を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

1) 1次調査では、A 県内の小児科病棟を有する医療 3 施設に依頼し、1 歳までの乳児に付き添う母乳育児中の母親に、倫理的配慮のもとアンケート調査を行い、回収の得られた 30 部を分析対象とし、統計学的な処理を行った。自由記述は、内容を質的に整理、分類した。食事内容は、「妊産婦のための食事バランスガイド」(厚生労働省および農林水産省)を活用し食事バランスを検討した。調査期間は、平成 24 年 5 月～平成 24 年 9 月。

調査内容は属性、付き添い日数、子どもの生後月数と疾患名、付き添い中の生活環境(病室、睡眠・食事環境)、家族支援状況、自覚する健康状態、乳房状態、母乳育児状況、母乳育児に関する困りごとの有無、付き添い中 2 日間の生活状況(具体的な母乳または搾乳の回数と量、睡眠・休息・気分転換・食事内容・乳房状態・乳房乳頭のセルフケア状況など)

2) 1次調査でインタビュー調査の協力が得られた母親 10 名に対して半構成的面接を行い、インタビュー内容は逐語録におこし、質的帰納的に分析した。調査期間は平成 25 年 1 月～平成 25 年 3 月。

調査内容は、付き添いをしながらの母乳育児に対する考え、付き添い生活中の気持ちと母乳分泌との関係、付き添い中の生活行動および体調と母乳分泌の関係、母乳分泌維持促進のための心がけや工夫など。

4. 研究成果

1) 属性

母親の年齢は 31.5 ± 3.3 歳、付き添い日数は 7.2 ± 6.3 日であった。子どもの月齢は、 4.1 ± 3.2 月、疾患は循環器疾患、整形外科疾患、呼吸器疾患、脳・神経疾患などであった。

2) 付き添い中の母乳育児状況および乳房

状態

付き添い中 2 日間の直接母乳の平均回数は 7.6 ± 2.4 回(最大 14 回, 最小 2 回), 搾乳の平均回数は 3.8 ± 2.5 回(最大 11 回, 最小 1 回)であり、子どもの疾患や治療のため授乳量や回数を制限されている母親もいた。付き添いしている子どもへの栄養法は、母乳のみ 21 人(70.0%), 混合栄養 9 人(30.0%)であり、主に直接母乳が 21 人(70.0%), 搾母乳が 9 人(30.0%)であった。全員が今後も母乳栄養の継続を希望していた。付き添いを始めてから自覚する母乳分泌量の変化では、「増えた」4 人(13.3%), 「減った」15 人(50.0%), 「変わらない」9 人(30.0%), 「わからない」2 人(6.7%)であった。乳房状態の変化は、「乳汁分泌や乳房緊満が少なくなった」「乳房緊満なし」がともに 13.3%であった。母乳育児への困りごとには、【落ち着いて授乳や搾乳ができない】【乳房状態の変化への対応が難しい】【子どもに必要な栄養が与えられているか不安】があった。

3) 付き添い中の生活環境

生活環境は、56.7%が個室、43.3%が大部屋、80.0%が子どもと同じベッドで就寝していた。付き添い生活で感じる不便さでは、90.0%の母親が食事・入浴場所が遠い、快適な睡眠がとれない、食事の調達が不便、食事や入浴では子どもの世話を看護者に頼みづらい、同室者への気遣いなどの不便を感じていた。

4) 付き添い中のセルフケア行動

付き添い中のセルフケアでは、活動状況は売店ラウンジなどの院内移動が最も多く、次いでシャワー浴、外出であった。食事摂取状況は、48.0%が主食の目安を満たしていたが、主菜の目安を満たす者は少なく、副菜、牛乳・乳製品および果物の目安を満たす者はいなかった。付き添い中は、食事内容や水分量を意識してとる、食事を抜かない、乳房乳頭への刺激を与える、疲れを取ることを心がけていた。また、40.0%が搾乳またはマッサージによる乳房のセルフケアを行っていた。

5) 付き添い中の健康状態と睡眠時間およびストレスの状況

(1) 健康状態と睡眠時間

付き添い中の健康状態で「体調が良い」に関する 5 段階評価の平均値は 3.1 ± 1.0 , 「熟眠感がある」に関する平均値は 2.1 ± 0.8 , 「疲労感がない」に関する平均値は 2.3 ± 0.9 , 疲労の持続期間は平均 5.1 日 ± 3.5 日であった。「ストレスを感じない」についての平均値は 2.3 ± 0.9 であった。母親が自覚する身体不調症状は、頭痛、腰痛、肩・首の痛み、腹痛などの痛みや肩こり、眠気、便秘、下痢、首・腰の張りなどの不快症状などであった。平均睡眠時間は 7.6 ± 2.0 時間(最大 12.5 時間, 最小 3.5 時間)であった。

(2) 母親のストレスの内容

ストレスの内容についての自由記述では、【他人への気遣い】【生活環境に馴染めない】

【生活が忙しい】【体調管理が難しい】【子どもがかわいそう】【家族に申し訳ない】の6つのカテゴリーに分類された。以下カテゴリーを【 】, サブカテゴリーを< >, 具体的な記述内容を“ ”で示す。【他人への気遣い】は, “子どもの泣き声が迷惑にならないか気になる”“温かい食事を食べたい(臭いに気を遣う)”などの<同室者への配慮>, “食事やシャワーに行くときに(スタッフに)頼みづらい”などの<子どもの面倒を看護師に頼みづらい>であった。【生活環境に馴染めない】は, “新しい環境でなかなか慣れず, 落ち込む時がある”“話し相手がいないので一人で子どもをみていると不安になる”などの<慣れない環境での生活>, “病院から出られないため 暇な時間が多すぎて逆に疲れてしまう”などの<外出できない>であった。【生活が忙しい】は, “トイレに行くのも焦るし落ち着く時間がない”などの<生活が落ち着かない>, “授乳中訪室されると中断しなくてはならず, 子どもが満足するまで授乳が続けられない”などの<ゆったりとした気持ちで授乳できない>であった。【体調管理が難しい】は, “母乳育児のため食事をしっかりとりたいが無理”などの<食事がしっかりとれない>, 睡眠不足による<快適な睡眠がとれない>であった。【子どもがかわいそう】は, “すごい剣幕で子どもが泣いていると切ない”などの<子どもの状態の心配>であった。【家族に申し訳ない】は, “上の子の育児を義母にお願いしているので様子が気になる”“(他の子どもたちに)寂しい思いをさせているのではないか”などの<自宅にいる兄弟や家族への気配り>であった。

6) 母乳分泌の増減に影響が考えられる要因との関連性

(1) 初産, 主な栄養法, 一日の授乳回数, 付き添い日数, 付き添い交代の有無別にみた母乳分泌量の変化(表1)

母乳分泌の増減に影響が考えられる要因を検討した結果, 主に直接母乳の母親に比べて搾母乳の母親に母乳分泌量が有意に減っていた。その他の項目では, いずれも有意差は認められなかった。

(2) 付き添い中の健康状態および平均睡眠時間と母乳分泌量の変化(表2)

付き添い中の健康状態について, 増えたまたは変わらない母親と減った母親の平均睡眠時間と健康状態の5段階評価の平均値の比較を行なった。平均睡眠時間では, 母乳分泌量が増えたまたは変わらない母親(8.40 ± 1.40)が減った母親に比べ有意に長かった(p < 0.01)。健康状態では, 母乳分泌量が増えた

または変わらない母親(体調 3.85 ± 0.69, 熟眠感 2.54 ± 0.88, 疲労感 3.00 ± 0.58, ストレス 2.85 ± 0.55)が, 減った母親に比べて有意に高かった(p < 0.01)。つまり, 睡眠時間が短く熟眠感がない, ストレスを感じ疲労感があり, 体調が悪い母親に母乳分泌量が有意に減っていた。睡眠時間および健康状態への影響要因として, 付き添い日数, 付き添い交代の有無, 育児協力者, 現在の栄養法, 授乳回数を健康状態について検討したが, 有意差は認められなかった。

(3) 母乳分泌量の変化別にみたストレスの内容(表3)

母乳分泌量の変化に関係なく共通した項目は, <同室者への配慮> <慣れない環境での生活> <外出できない> <ゆったりとした気持ちで授乳できない> <食事がしっかりとれない> <子どもの状態の心配> <自宅にいる兄弟や家族への気配り>であった。

母乳分泌量が増えたまたは変わらない母親と減った母親のストレス件数を比較すると, 【他人への気遣い】【子どもがかわいそう】【家族に申し訳ない】で特に分泌量が減った母親が多かった。【生活環境に馴染めない】【生活が忙しい】【体調管理が難しい】ではほぼ同数であった。

表1 初産, 主な栄養法, 1日の授乳回数, 付き添い日数, 付き添い交代の有無別にみた母乳分泌量の変化

項目	母乳分泌量の変化		人数(%)	n = 28
	増えた・変わらない (n = 13)	減った (n = 15)		
初産の別	初産婦	7 (53.8)	8 (53.3)	n.s
	経産婦	6 (46.2)	7 (46.7)	
主な栄養法	直接母乳	7 (53.8)	7 (46.7)	p = 0.016*
	搾母乳	1 (7.6)	8 (53.3)	
1日の授乳回数	8回以上	8 (61.5)	8 (53.3)	n.s
	8回未満	5 (38.5)	7 (46.7)	
付き添い日数	7日以上	6 (46.2)	10 (71.4)	n.s
	7日未満	7 (53.8)	4 (28.6)	
付き添い交代の有無	あり	2 (15.4)	8 (53.3)	n.s
	なし	11 (84.6)	7 (46.7)	

*検定 *p < 0.05

調整済み残差を確認し, この値が+2以上であるものを他の頻度より多いと判断し, セル内を水玉で示した

表2 付き添い中の健康状態と母乳分泌量の変化

健康状態	母乳分泌量の変化		増えた・変わらない		減った		n = 28
	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD	
体調がよい	3.85 ± 0.69		2.36 ± 0.84				p = 0.000**
熟眠感がある	2.54 ± 0.88		1.73 ± 0.59				p = 0.008**
疲労感がない	3.00 ± 0.58		1.80 ± 0.77				p = 0.000**
ストレスを感じない	2.85 ± 0.55		1.87 ± 0.92				p = 0.002**
平均睡眠時間	8.40 ± 1.40		6.66 ± 1.34				p = 0.002**

対応のないt検定 **p < 0.01

表3 母親のストレスの内容

カテゴリ	サブカテゴリ	内容	件数
他人への気遣い	同室者への配慮	同室者への気遣い(B, E, F, M) 「夜中と寝ないついても同室の子が泣いたりして起きてしまう(T) 子どもの泣き声が迷惑にならないか気になる(O) 子どもの生活(S) 温かい飯事を食べたい(臭いに気を遣う)(J)」	8 (2)
	子どもの面倒を看護師に頼みづらい	「食事やシャワーに行くときに頼みづらい(B) 何をしても看護師に言わないといけない(S) 夜間、トイレに行くたびにスタッフが頼むと忙しそうでタイミングが難しい(O)」	3
生活環境に馴染めない	慣れない環境での生活	「慣れても自分とは違うので、個室で慣らなって休むことに抵抗がある(G) 「自宅にいた時のような生活リズムを取り戻せない(M) 「新しい環境でなかなか慣れず、落ち込む時がある(O) 「慣れない環境での生活(L) 「話相手がないので一人で子どもをみていと不安になる(J) 「スタッフの私語や笑い声が気になる(O)」	7 (4)
	外出できない	「室外へ出れない(P) 「何日もずっと同じ場所にいるのは苦痛、外へ出られないストレス(D) 「病院からでられないため、暇な時間が多すぎて、逆に疲れてしまう(E)」	4 (2)
生活が忙しい	生活が落ち着かない	「洗濯・着替えなどを考えると一度睡らないと入浴できない(H) 「トイレに行くのも焦るし落ち着く時間がない(J)」	2
	ゆったりとした気持ちで授乳できない	「授乳中妨害されると中断しなくてはならず、子どもが満足するまで授乳が続けられない(C) 「授乳中も看護師が様子を見に来る。前後母乳が飲めず量から入れているので授乳しなければいけなかった。鼻からと一回に1時間以上かかり、チューブが取れないか気にしているといけない(L)」	2 (1)
体調管理が難しい	食事がかかりたくない	「母乳育児のため食事もしっかり取りたいが無理(N) 「前にはんを食べに行かない(B)」	2 (1)
	快適な睡眠がとれない	「睡眠不足(R)」	1
子どもがかわいそう	子どもの状態の心配	「子どもが泣いても治療のため抱きしめることができない(M) 「子どもの心配(A) 「ずっと母乳で子どもが泣いていると切ない(D) 「娘を見ていてあまり変化がなく、苦しいような姿をみていると申し訳ない(S)」	4 (1)
	家族に申し訳ない	「上の子の育児を義母におまかせしていることで様子になる(C) 「上の子と離れ1対1の育児(K) 「他の子どもたちと会えない事、寂しい思いをさせているのはないか(V) 「実が近いにないため義父母に子どもをみてもらっているが、大変だと思うので申し訳ない(V)」	4 (1)

下線が引いてある内容は母乳分泌が増えた母親の記述を示す
 件数内の()は母乳分泌が増えた母親の件数を示す

7) 付き添い中の母親の母乳育児に対する考えと心理状態

付き添い中の母親の母乳育児に対する考えには、【今後も母乳育児を継続する】【子どもの成長を考える】【頑張っている子どもに母乳を与えたい】【母乳育児継続の気持ちが揺らぐ】があった。付き添い中の母乳育児に伴う心理状態では、【子どもの現状を受け入れる余裕がない】【思い通りに母乳を与えることができない】【生活環境へのフラストレーションが高まる】【常に張り詰めた精神状態】【付き添いをネガティブに捉えない】【時間の経過によって生まれる気持ちの余裕】があった。

5. 考察

1) 付き添い中の母親の生活状況

付き添い中の母親平均睡眠時間は、出産後6ヶ月までの母親の平均睡眠時間6時間¹⁾を上回り、また、子育て期(就学前)の妻の平均睡眠時間7.29時間²⁾をも上回っていることから、家事の負担が無く消灯時間が定められているため、自宅での生活に比べて体を休められていると考える。産後は、子どもへの授乳や育児で睡眠が分断されるが、母乳哺育によって徐派睡眠(ノンレム睡眠)が促される³⁾ため、短時間の睡眠でも熟眠できている状況である。しかし、本研究では母親の熟眠感および疲労感の平均値が低い。睡眠の充足感には部屋の照度、騒音、寝具、入院などの環境の変化、心配事、不安などで変化する⁴⁾ため、付き添いの母親のように睡眠形態が子どもと同じベッドや簡易ベッドでは、広々と眠れない睡眠環境であり、加えて、子どもの状態の心配、同室者や看護師の夜間訪室、持続点滴など医療機器が気になるなどの配慮から、睡眠時間は確保出来ているが、良質な睡眠が確保出来ていない状態と考える。

産後2ヶ月を過ぎると大部分の母親は産褥期の疲労から回復しており、育児の体制を確立し、育児に専念することができるようになる⁵⁾とされているが、産後2ヶ月以降は育児

を含めた日常生活による身体症状(肩こり、腰痛、頭痛、疲労感など)が多く見られるようになるという報告もあり⁶⁾、本研究でも肩こりや頭痛、腰痛などの自覚する身体不調症状と一致していた。生活状況では、付き添い交代の無い母親が63%を占めており、常に子どもから離れられず、子どもの様子を気にしながら食事や入浴も短時間で済ませ、外に出られない生活が推測される。さらに、疲労感の平均値も低いことから、子どもに付ききりの忙しい生活では、ストレスの蓄積や運動不足となり、身体不調症状の深刻化につながる事が考えられる。関島⁷⁾は、子育て期早期(生後6ヶ月から1歳未満の子どもをもつ時期)にある母親の多くが、身体不調症状や疲労が蓄積した症状を自覚し、良好な健康状態とはいえないため、良質な睡眠や休息の確保に向けた支援の必要性を示唆している。本研究で対象となった母親のほとんどが産科学という産褥期(産後6~8週間)を過ぎた母親たちであるため、本来付き添いをしていない場合でも、同様の身体不調症状を自覚している可能性が高い。本研究では、付き添い以前の母親の健康状態との変化について明確にすることができなかったため、今後はこの点についてさらに検証していく必要性がある。

また、主な栄養法では、搾母乳のみも含め母乳のみの母親が70%と割合として多いが、母乳分泌量の低下を感じている母親が半数を占めている。調査対象となった母親の中には、実際に母乳分泌量は減っていないが母乳不足感を感じている母親もいることが考えられ、付き添い生活でのストレスや不安から母乳育児に対する自信が揺らいでいる可能性もある。母親のストレス内容では、母乳分泌量の増減に関係なく付き添い生活への適応の難しさを感じている母親が多く、不安や戸惑い、気疲れを感じながら生活している。さらに母乳分泌量が減った母親では、同室者や看護師への気遣い、子どもの状態の心配、離れて暮らしている家族への気がかりというストレスが多いことが、母乳分泌量や母親の母乳分泌に対する意識に影響していることが考えられる。

2) 母乳分泌の減少を予防するための看護

母乳分泌の増減に影響が考えられる要因を検討した結果、主に搾母乳の母親に母乳分泌量が減っていたことは、搾母乳の回数が平均3.8回と少ないことが原因として考えられる。児に付ききりの忙しい生活の中で搾乳する時間が確保できないことや看護師などの頻回の訪室、カーテン1枚を隔てての搾乳環境などから落ち着いて搾乳できないことが考えられる。搾乳回数が少なく、母乳が乳腺腔内に貯留している状態では、オートクリン・コントロールによる乳汁産生の低下の可能性が考えられる。そのため、落ち着いて搾乳ができる環境の改善や搾乳時子どもを預かるなどの配慮により、搾乳時間や搾乳回数

の短縮を防ぐ必要があると考える。授乳に関するストレスには、授乳中の看護師の訪室により授乳が中断したり、ゆったりとした気持ちで授乳できない内容も含まれていることから、看護者の訪室が母親のストレスや母子の愛着形成の妨げとならないようにする必要があると考える。また、看護者は、適宜母乳分泌状態の評価をすることや母親が母乳分泌量に不安を感じている場合、母親が母乳育児に対して自信を失うことがないようにサポートする必要があると考える。さらに、ストレスはプロラクチンの分泌も促進するため乳汁産生は増加するが、オキシトシン分泌は低下し、乳汁の排出がうまくいなくなるため、乳腺腔内に乳汁がたまりやすくなり、乳腺炎などの乳房トラブルにつながる⁸⁾。付き添い中の母親が母乳分泌を維持促進していくためには、良好な健康状態を保ち良質な睡眠を確保し、ゆったりとした気持ちで付き添い生活ができるような支援が必要となる。そのためには、足浴などの良質な睡眠が確保できるための支援や身体不調症状予防のためのストレッチの紹介などが有効と考える。また、ストレスによるオキシトシン分泌の減少や乳房トラブル予防のため、保育士やボランティアの配置など、子どもを安心して預けられる体制の整備や母親のニーズにあった訪室のタイミングの検討などが必要と考えられた。

また、母親は母乳分泌の維持やトラブル予防に努めているが、実際には食事や水分を意識することが精一杯の状況であるため、看護者は付き添い中の母親が効果的な授乳やセルフケアが行われているかを判断し、適切なサポートを行う必要があると考えられた。そのためには、病棟への助産師配置または院内の助産師が対応できる体制が求められる。さらに、バランスの良い食事摂取ができるための相談窓口や病院食の提供を検討する必要があると考える。

付き添い中の母乳育児に対する考えと心理状態では、母親は子どもの病気や付き添い生活へのストレスを感じながらも母乳育児を継続したいと考えていた。家族や他者の支え、付き添い生活に適応していく中で、自身の気持ちを整理することにより母乳育児の継続につながっていた。以上より、母親の付き添い生活中のストレスの軽減に対する支援や母乳育児継続のための精神面でのサポートが必要と考えられた。

文献

- 1) 國分真佐世, 飯田美代子, 今井理沙, 他. 出産後6ヶ月までの母親の身体活動と自覚疲労の推移. 母性衛生. 45(2), 2004, 260 - 268.
- 2) 総務省「平成18年社会生活基本調査」夫と妻の生活時間. 女性の暮らしと生活意識データ集2009. 東京, 三冬社, 2008, p50.
- 3) 江藤宏美. マタニティ・サイクルにおける

- る睡眠のケア. 睡眠医療. 6(4), 2012, 553 - 558.
- 4) 川口孝泰. 病室に求められる睡眠の場の条件. 看護技術. 41(4), 1995, 38 - 42.
 - 5) 外間登美子, 谷口希代子, 竹中静廣. 母親の疲労に関する調査成績 - 産後1ヶ月から3ヶ月までのアンケート調査より -. 母性衛生. 38(2), 1997, 179 - 181.
 - 6) 青柳優子, 坂元和代, 島守洋子, 他. 出産後6ヶ月までの母親の健康自覚に関する研究. 順天堂大学医療看護学部医療看護研究. 2(1), 2006, 17 - 22.
 - 7) 関島香代子. 子育て期にある女性の身体的健康. 母性衛生. 53(2), 2012, 375 - 382.
 - 8) 水野克己, 水野紀子. 母乳育児支援講座. 東京, 南山堂, 2011, 17 - 31.

5. 主な発表論文等

(研究代表者, 研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

塩澤綾乃, 清水嘉子, 佐々木美果, 赤羽洋子, 宮原美知留, 阿部正子, 藤原聡子
入院中の乳児に付き添う母親の母乳分泌に影響を与える要因の検討 - 健康状態, 睡眠時間, ストレスの状況から -
長野県母子衛生学会誌, 査読あり, 第16巻, 2014, p13-21

〔学会発表〕(計 3 件)

入院中の乳児に付き添う母親の母乳分泌維持促進のためのセルフケア行動
日本母性看護学会, 2013年7月6日~2013年7月7日, 東北大学

入院中の乳児に付き添う母親の母乳分泌に影響を与える要因の検討
長野県母子衛生学会, 2013年11月9日, 信州大学

Living environment and nursing among mothers who accompany their hospitalized infants
International Midwives Congress, 2014年6月1日~2014年6月5日, チェコ共和国プラハ

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等: なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

塩澤綾乃 (SHIOZAWA, Ayano)
長野県看護大学看護学部・助教
研究者番号：20551435

(2) 研究分担者

清水嘉子 (SHIMIZU, Yoshiko)
長野県看護大学看護学部・教授
研究者番号：80295550

(3) 連携研究者

藤原聡子 (FUJIHARA, Satoko)
長野県看護大学看護学部・准教授
研究者番号：00285967

(4) 連携研究者

阿部正子 (ABE, Masako)
長野県看護大学看護学部・准教授
研究者番号：10360017

(5) 連携研究者

赤羽洋子 (AKAHANE, Hiroko)
長野県看護大学看護学部・助教
研究者番号：50545122

(6) 連携研究者

宮原美知留 (MIYAHARA, Michiru)
長野県看護大学看護学部・助教
研究者番号：90438177

(7) 連携研究者

佐々木美果 (SASAKI, Mika)
長野県看護大学看護学部・助教
研究者番号：80620062